

四捨五入 5はどっちに近いの？

i 日常生活の中で、概数を用いる場合を明らかにする活動を設定する。

- およその数にするのがふさわしい場合を話し合わせる。
 ア；祭りの参加者数のように、正確な数をつきとめられない場合
 イ；人口のように、生まれたり死んだりして絶えず変化する場合
 ウ；魚や野菜の取れ高のように、私たちにとって詳しい数が必要でない場合
 エ；およその数にした方が、イメージしやすく、他者にも伝えやすい場合
 オ；温度をよんだり、詳しい数をグラフに表したりする場合
- およその数にするきまりの見通しを持たせる。
 ・近い方にすれば良いことを確認させる。

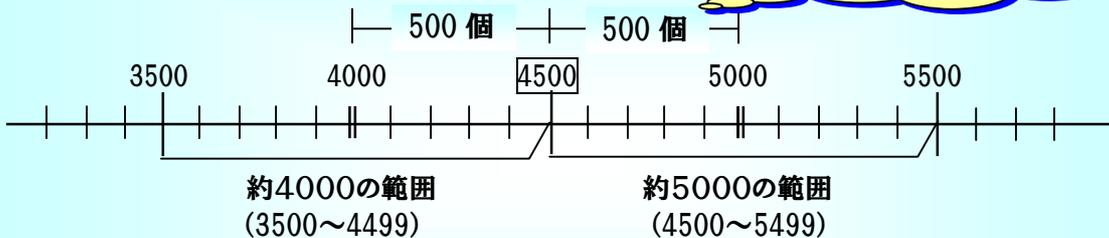


ii 数直線（棒グラフ）に表す活動の中で、概数をイメージさせる。

- 4185は、4000に近いこと、4613は5000に近いことを確認する。
 ア；数直線に表記させながら、近い数に丸めることを約束していく。
 イ；4185を4000に丸めるということは1000に足りないはしたの185を0とみたこと、4613を5000に丸めるということは、613を1000とみたことを確認する。
- 4000から5000の間を検討する活動を設定する。*4500がポイント！

iii 4000から4999の数を対象に判断させる。(0~9の数を判断)

* 二等分した、4000~4499と4500~4999の数で、切り捨てる数、切り上げる数を整理する。



- * およその数にするきまりをまとめる。
- 切り捨てる最大の数の4、切り上げる最小の数の5がポイントであること。
 - 4以下は捨てる、5以上は上げる(入れる)ことから、「四捨五入」という、概数にするための簡潔な方法名がつけられていることを確認する。

iv 数の桁数を変化させながら、四捨五入の方法で概数にする活動を設定する。

- 6桁・7桁の数を千の位までの概数に。
 ア $\begin{array}{r} 323 \overline{)855} \\ \underline{324} \\ 4000 \end{array}$ イ $\begin{array}{r} 3928 \overline{)215} \\ \underline{392} \\ 8000 \end{array}$
- 3桁の数を百の位までの概数に。
 ア $\begin{array}{r} 7 \overline{)51} \\ \underline{80} \end{array}$ イ $\begin{array}{r} 3 \overline{)49} \\ \underline{30} \end{array}$
- 1桁の数を十の位までの概数に。
 ア $\begin{array}{r} \overline{)4} \\ \underline{0} \end{array}$ イ $\begin{array}{r} \overline{)5} \\ \underline{10} \end{array}$
- 1桁の数を一の位までの概数に。
 ア $\begin{array}{r} \overline{)4} \\ \underline{4} \end{array}$ イ $\begin{array}{r} \overline{)5} \\ \underline{5} \end{array}$

きまりに従った処理。